

2023年9月11日

各位

会社名 株式会社シャノン
代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎
(コード番号:3976 東証グロース)
問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学
(電話番号:03-6743-1551)

2023年10月期 第3四半期決算について想定されるご質問に対する回答

本資料は、本日開示した2023年10月期 第3四半期決算について想定されるご質問に対する回答を皆様にご参考として開示するものです。

Q1	3月に公表した資金調達のここまでの実行状況は？
A1	2023年8月末時点で転換社債の発行により6億1,446万円、新株予約権の行使により1億3,659万円を調達しております。

Q2	2023年10月期の通期業績予想修正予算について、修正の主要因を教えてください。																												
A2	<p>業績予想を修正した主要因は、メタバース事業の進捗遅れとそれに伴うメタバース事業における減損損失の計上になります。その他状況を含めた詳細は、2023年9月11日公表の「子会社における損失（固定資産の減損損失）の計上及び2023年10月期通期連結累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ」及び同日公表の「2023年10月期 第3四半期 決算補足説明資料」をご参照ください。</p> <p>なお、当初予算に対してはビハインドしているものの、主力事業であるサブスクリプション事業を中心に各事業ともに前期からはしっかりと成長をしております。</p> <p>(単位:百万円)</p> <table border="1"><thead><tr><th>事業</th><th>2022年10月 期通期実績</th><th>2023年10月期 修正予算</th><th>前期比 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>サブスクリプション事業</td><td>1,846</td><td>2,132</td><td>115.5%</td></tr><tr><td>サブスクリプション</td><td>1,277</td><td>1,410</td><td>110.4%</td></tr><tr><td>プロフェッショナル</td><td>569</td><td>722</td><td>126.9%</td></tr><tr><td>イベントクラウド事業</td><td>433</td><td>548</td><td>126.6%</td></tr><tr><td>メタバース事業</td><td>29</td><td>33</td><td>113.8%</td></tr><tr><td>広告事業</td><td>146</td><td>245</td><td>167.8%</td></tr></tbody></table>	事業	2022年10月 期通期実績	2023年10月期 修正予算	前期比 (%)	サブスクリプション事業	1,846	2,132	115.5%	サブスクリプション	1,277	1,410	110.4%	プロフェッショナル	569	722	126.9%	イベントクラウド事業	433	548	126.6%	メタバース事業	29	33	113.8%	広告事業	146	245	167.8%
事業	2022年10月 期通期実績	2023年10月期 修正予算	前期比 (%)																										
サブスクリプション事業	1,846	2,132	115.5%																										
サブスクリプション	1,277	1,410	110.4%																										
プロフェッショナル	569	722	126.9%																										
イベントクラウド事業	433	548	126.6%																										
メタバース事業	29	33	113.8%																										
広告事業	146	245	167.8%																										

Q3	2023年10月期の通期業績予想修正内容を踏まえると、2024年10月期を最終年度とする中期経営計画の見直しは行いますか？
A3	現在、来期（2024年10月期）の予算策定協議を進めているところであり、2024年10月期を最終年度とする中期経営計画についても、その精査を行っているところでございます。

Q4	サブスクリプション事業は順調ですか？
A4	当初計画に対しては若干ビハインドしているものの概ね順調に推移しています。サブスクリプション事業は、毎月売上があがるサブスクリプション売上と、SHANON MARKETING PLATFORMの新規導入やコンサルティングサービスの提供により発生するプロフェッショナル売上に分かれています。当社としては、中期的な収益につながるサブスクリプション売上が順調に積み上がることが最重要課題であり、前年同期比10.1%増と順調に推移しています。

Q5	サブスクリプション事業の新規獲得が順調に見えます。要因は？
A5	第3四半期までの新規獲得件数は、前期が70件であったのに対して、当期は85件となっています。 これは営業組織の強化・拡大、並びにソリューションの拡大や製品機能の強化の成果であると考えております。 営業人員は毎年増員をしておりますが、新戦力に対しての営業研修や、マネジメント人材の強化による継続的な育成を通じ、組織力は高まってきています。

Q6	プロフェッショナルサービス（サブスクリプション事業）について、エンタープライズ向け大型案件の納期ずれとのことですが、4Qに納品されますか？
A6	現時点では、通期においては計画通りに納品、売上計上される見込みとなります。

Q7	イベントクラウド事業の直近の受注状況を教えてください。
A7	新型コロナウイルス感染症の5類感染症以降に伴い、企業の展示会やプライベートショー等のリアル開催商談は順調に回復しております。 企業イベントの特性上、開催計画から実行まで時間がかかることを踏まえると、現在の商談は来期（2024年10月期）の売上計画に寄与する案件が徐々に多くなっており、リアル開催イベントの商談は足元でも多く発生しております。

Q8	メタバース事業の海外進出について、来期は計画はありますか？
A8	メタバース事業については、事業進捗が遅れていることもあり海外進出についても慎重にその時期を検討する必要があると考えております。ご報告ができる段階になりましたら、ご説明させていただきます。

Q9	(メタバース事業) 3月に「マルチプレイ」がリリースされたと思いますが、その後の販売には寄与しているのでしょうか？
A9	メタバースイベントプラットフォーム「ZIKU」の新機能として、3月にマルチプレイ機能をリリースしました。マルチプレイ機能は当初、大型展示会において重要な機能であると考え機能開発をスタートしましたが、実際にリリースを行うと、イベントの種類、規模の大小を問わず幅広い案件でご用命をいただいています。 なかには、マルチプレイ機能がキーとなり受注に至ったケースもあり、今後の売上貢献への期待も高い機能であると考えております。

Q10	(メタバース事業) 8月に「認証レス入場機能」リリースがありましたが、これはどんな用途のためにリリースした機能ですか？今後の販売先はどのあたりを想定していますか？
A10	メタバースイベントプラットフォーム「ZIKU」の新機能として、8月に「認証レス入場機能」をリリースしました。これは、ユーザー登録・認証不要でメタバース空間にアクセスできる機能であり、より気軽にアクセスしやすい形でメタバース空間を利用したいというお客様からの要望にお応えする形でリリースをしました。 「認証レス入場機能」の利用用途は、BtoC 企業向けにはオンライン店舗として、BtoB 企業向けにはショールームとしてのご契約を想定しております。また、オンライン店舗やショールームで利用する場合は年間契約とするサブスクリプション型のビジネスとすることも検討しております。 オンライン店舗、ショールーム共に、まだお客様向けのご案内サイトが完成していない段階であるものの、プレスリリースを見てすでに問合せも発生し、受注もできていることから、今後の売上貢献に期待が持てる状況であると考えております。

Q11	広告事業で提供している「国内初の『ポストクッキーダイナミックリターゲティング広告』」の受注進捗を知りたい。
A11	現在、広告事業で提供する「自社 DSP サービス」の新規案件は、大半がポストクッキーダイナミックリターゲティング広告となっており、受注は順調に増加しており、来期以降にも期待をしております。

各種 IR ライブラリー資料はこちら

<https://www.shanon.co.jp/ir/library/index.html>

- 本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報（forward-looking- statements）」を含みます。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社または当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。
- これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 投資判断を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。